

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果における校内分析から見た本校児童の様子

帯広市立豊成小学校 校長 平野 司

1 実施日

令和5年4月18日

2 児童の実態 (令和5年度全国学力・学習状況調査結果より)

(1) 各教科の概要 (○:成果 ▲:課題)

①国語科

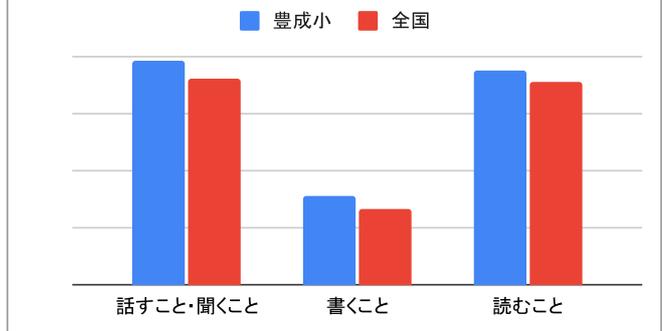
○ 学習指導要領の内容「知識及び技能」の「言語の特徴や使い方に関する事項」において、全国の平均正答率を上回っています。

○ 学習指導要領の内容「思考力、判断力、表現力等」では、どの領域においても全国の平均正答率を上回っています。

○ 問題形式が「選択式」「短答式」「記述式」のいずれの設問においても、全国の平均正答率を上回っています。特に、「記述式」における無解答は、全国に比べかなり少ない結果でした。

▲ 学習指導要領の内容「思考力、判断力、表現力等」の「書くこと」の領域において、全国の平均正答率を上回ってはいるものの、複数の情報を整理して自分の考えをまとめたり書き表し方を工夫したりすることに課題が見られます。

領域別平均正答率



【今後に向けて】

* 話や文章の中心となる語や文を捉えることや、話し手の伝えたいことを捉えることがよくできています。読書活動や音読指導、授業における文章を正しく読み取る活動などにより力を付けていることがうかがえます。

* 一方で、図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書き表したり、複数の資料を関連付けて自分の考えをまとめたりすることに課題があります。目的を意識した文章を書く場面を計画的に設定する中で、自分の考えを書くことに意欲的に取り組むことができるよう、モデルの提示や、丁寧な個への働きかけを重ね、指導の充実を図っていきます。

②算数科

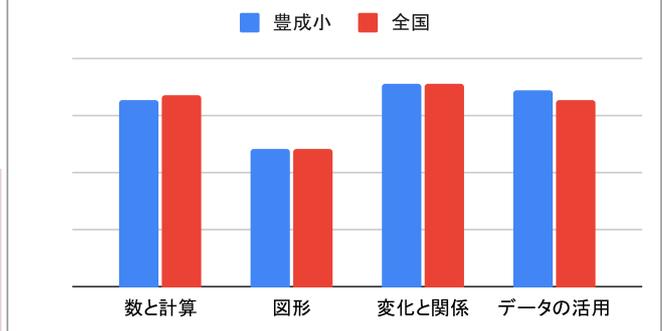
○ 学習指導要領のどの領域においても、全国の平均正答率を上回っています。

○ 問題を日常生活に関連付けて読み取ることができています。

▲ 「図形」の領域において、問題を解決する際に必要な情報を見出したり、その理由を記述したりすることに課題が見られます。

▲ 問題形式が記述式の設問において、無解答は少ないものの、全国の平均正答率を下回っています。

領域別平均正答率



【今後に向けて】

* 昨年度と比較し、特に「変化と関係」「データの活用」の領域において正答率が伸びています。ICT機器を積極的に使うことで、視覚的な理解から、数量の関係などを読み取る力がついてきていることがうかがえます。さらに、ICT機器を効果的に活用しながら、様々な情報の関係を整理する力を育てていきます。

* 「図形」の領域においては、図形の性質などは理解しているものの、具体的な数値が示されていない場面において、問題を解決するために必要な情報を主体的に見出したり、適当な数値をあてはめたりして考えることができるような学習を設定する必要があります。子どもたちが主体となって、言葉や式、図や表・グラフなど様々な手掛かりに、課題を解決する場面、説明する場面を計画的に位置付けていきます。

(2) 児童質問紙 (○:全国と比べよい傾向が見られた項目 ▲:改善を図っていく必要がある項目)

【生活面】

- 将来の夢や目標をもっている。
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。
- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- ▲ 友人関係に満足している。
- ▲ 学校に行くのは楽しいと思う。

【学習面】

- PC、タブレットなどのICT機器を活用した学習を、毎日行っている。
- 授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっている。
- 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている。
- 学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。
- 授業で学んだことを、他の学習で生かしている。
- 国語の勉強は大切だと思う。
- 国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめている。

- 国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝えあい、自分の文章のよいところを見つけている。
- 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う。
- 英語の勉強は大切だと思う。
- ▲ 学校の授業時間以外の、1日当たりの学習時間。
- ▲ 学校の授業時間以外の、1日当たりの読書時間。
- ▲ 算数の授業の内容はよく分かる。

【今後に向けて(生活面)】

- * 地域のために貢献したい意識をもち、さらに、自分の将来の夢や目標をもったり、自分が今努力すべきことを考えたりする力が高いといえます。6年間を通じて進めているキャリア教育の積み重ねの成果と考えます。
- * いじめについて、道徳の学習を生かし、日常生活の中で自分事として考える力がついています。日常においても、相手意識をもちながら学校生活を過ごすことができます。成長期の中で、友人関係に悩みを感じる児童もいます。日常的に、児童の心に寄り沿う指導を続けていきます。

【今後に向けて(学習面)】

- * 日常の授業において、PC、タブレットを活用した学習が行われているため、タブレット端末を鉛筆など同様の学習用具として扱うことができます。今後も、自分の考えをまとめたり、友達と共有するなどの場面で効果的に活用していきます。
- * 国語の学習の大切さを理解しています。授業の中で自分と他者の意見を比較し、他者のよいところを取り入れたり、自分のよいところ自信をもつ活動に、意欲をもって取り組んでいる成果と考えます。
- * 算数については、役立つもの、大切なものと捉えてはいますが、「分からない」「できない」と考えている児童が見られます。これまで以上に「できた」「分かった」を感じることができる1時間ごとの授業の積み重ねに努める必要があります。何ができたようになったのか、既習事項とどのようにつながっているのかなど、1時間ごとの振り返りを次時につなげる学習を大切にすすめていきます。
- * 授業以外での学習時間、また読書時間については、全国と比べ下回る結果となっています。ご家庭の協力もお願いしながら、楽しんで学んだり、読書をしたりするよさを伝えていくことが重要だと考えます。将来を見据え、学習習慣の確立と、読書の大切さを繰り返し指導していきます。